



2023年10月17日
学校法人酪農学園
イオン北海道株式会社

学校法人酪農学園とイオン北海道株式会社は 包括連携協定を締結します

学校法人酪農学園（理事長：高島 英也、以下、酪農学園）とイオン北海道株式会社（代表取締役社長：青柳 英樹、以下、イオン北海道）は、相互連携を強化し、地域の資源循環の取り組みを推進するため、包括連携協定を締結します。

酪農学園とイオン北海道は、2021年、酪農学園大学の近隣に所在するイオン江別店において、酪農学園大学の学生が飼育した牛肉の販売を開始しました。その後、豚肉・羊肉においても販売を開始するなど取り組みを拡大してまいりました。この度、さらに連携を深め、「食品系バイオマスの活用に関すること」、「教育・研究に関すること」、「インターンシップ等、学生との交流に関すること」など、計5項目において、より緊密な連携を図ってまいります。

協定に基づく取り組みの一例として、イオン江別店で排出された食品廃棄物（食品系バイオマス）を酪農学園に無償提供し、酪農学園はその食品系バイオマスをエコフィードやバイオガス、バイオマス、堆肥の資源として有効活用し、地域に還元します。

本協定を機に、酪農学園とイオン北海道はこれまで以上に連携し、地域の活性化やSDGsの推進に資する取り組みを推進してまいります。

【包括連携協定の概要】

- (1) 食品系バイオマスの活用に関すること
- (2) 教育・研究に関すること
- (3) インターンシップ等、学生との交流に関すること
- (4) 地域の課題解決に関すること
- (5) その他、循環型社会の推進に関すること

【本件に関するお問い合わせ先】

学校法人酪農学園 地域連携課 野村

TEL 011-388-4131

イオン北海道株式会社 環境・社会貢献・広報・IR部

TEL 011-865-9111

ご参考

【酪農学園とイオン北海道の取り組みの一例】

■エコフィード100%給与肉牛をイオン道産デーに当社5店舗で販売

イオン北海道は、北海道コカ・コーラボトリング株式会社と学校法人酪農学園が共同研究を進めている『エコフィード※1 給与対象 肉牛』が順調に肥育し、出荷を迎えるにあたり、2023年5月19日（金）から実施した「イオン道産デー」において、イオン江別店を含む5店舗の畜産売場にてこの肉牛を販売しました。

エコフィードの利用を推進することで、廃棄物量の削減、国内飼料率の向上、飼料価格の安定、畜産農家の経営安定につながるほか、地産地消や製造過程の公表、安全・安心な食肉生産という観点からも持続可能な社会の構築に寄与します。販売した肉牛は、肥育期間中エコフィードを100%給与した短角牛で、お肉の特徴は赤身主体で程よい脂肪交雑の肉牛です。また、イオン江別店では飼育した酪農学園大学の学生が直接店頭立ち、こだわりやおいしさなどをお客さまに周知しました。

※1：環境にやさしい（エコロジカル）や節約する（エコノミカル）等を意味する「エコ」と飼料を意味する「フィード」を併せた造語で、1. 食品製造副産物 2. 余剰食品 3. 調理残渣 等を利用し製造された家畜用飼料のこと



5月15日(月)に行った3社共同記者会見
(左より)イオン北海道(株)青柳社長
学酪農学園西田常務理事
北海道コカ・コーラボトリング(株)佐々木社長



肉牛を飼育した学生がイオン江別店の畜産売場に
直接店頭立ちお客さまへPR

■SDGsの取り組み

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するために国連サミットで採択された、2030年までの国際目標です。当社は、SDGsの目標達成に向けて取り組みを推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

